

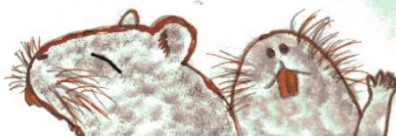


サポちゃん通信

No. 5

自然が好き

生きものが好き



目次

・春過ぎて夏来にけらし…	2
・昆虫カード	3
・南半球の動物たち	4-5
・ライトトラップ・パーティー	6-7
・ノムラホイホイ使ってみたら	8-9
・ゼフィルス観察会 in 山口市徳地	10-11
・お母さんは強かった	12
・鴻ノ峰の昆虫調査と観察会	13
・仮剥製	14
・コラム 特定外来生物アライグマとヌートリア	15
・カメさんとトメさん 表紙あとがき	16
表紙・イラスト	原まゆみ

春過ぎて夏来にけらし…

テーマ展「寄贈された動物資料」が終わって、貝とはお別れね(@^^)/~~~と思っていたら甘かった、まだデータ整理が残されていましたよ。

再び貝類図鑑をひっくり返し、中高年には目つぶしの刑のようだね～と言いながら地道に作業を進めます。実は完成はまだ遠かったとは…やっぱり田中先生のニコニコ顔は要注意です。

一方、夏の特別展「どきどき！ドローン・ワールド」に向けての準備も並行して進んでいます。工作コーナーで、小さい子供も作って遊べる動くおもちゃを作りたいねと知恵を出し合い、試作を重ねて、さあ毎年恒例の量産タイムですよ！

私はポンポン作り職人と化しております。さあ、このもふもふは何になるでしょう？その正体は、ぜひ8月の博物館で確認してください。ご来場お待ちしております。(間田敬子)



ポンポン作り 職人技

昆虫カード



6月に鴻ノ峰で行われる‘初夏の昆虫観察会’のために、昆虫カードを作りました。

4年間現地で撮りためた沢山の写真の中から5~7月に良く見られるものを100種選びました。表は昆虫の写真、裏は学名ほかプチ情報も載せました。原さん作の‘〇〇のなかまカード’もあります。

表

裏



カメムシ目カメムシ科
アカスジカメムシ

体長 9-12mm 出現 5-10月
黒と赤のストライプはサッカーのユニフォームのようで、すぐに覚えられるよ。



チョウ目ハマキガ科
ビロードハマキ

開張 34-59mm 出現 6-10月
黒色と黄色のまだらもように、赤色の線があり、目立つ色合いをしている。昼間も活動するよ。

〇〇の仲間カード



南半球の動物たち

平成 30 年 12 月末、神戸港より南半球世界一周 3 ヶ月のクルーズに出発。13 か国 17 寄港地を巡る。

マダガスカルではバオバブの樹にハヤブサの巣があった。南アフリカのサファリ体験、ビッグ 5 (象・ライオン・サイ・バッファロー・ヒョウ) のうちヒョウ以外確認、キリンの親子も見られた。

大西洋を渡ってブラジルで「イグアスの滝」を観光。公園内のホテルの庭でオオハシが見られた。ウシュアリア (アルゼンチン) では、ウッドペッカーに遭遇、パタゴニアフィヨルドのピオ 11 世氷河は圧巻だった。

チリではアザラシとペリカン。イースター島ではモアイ像を観光。トビウオが飛び、カツオドリも飛ぶ。タヒチでネッタイチョウに再会 (レユニオン島「フランス領」でも見た)。ボラボラ島の海の青さは格別。緑色の鳩にもビックリ!

平成 31 年 4 月神戸港に帰国、長いようで短い旅も終わった。

(本間喜美恵)



イグアスの滝



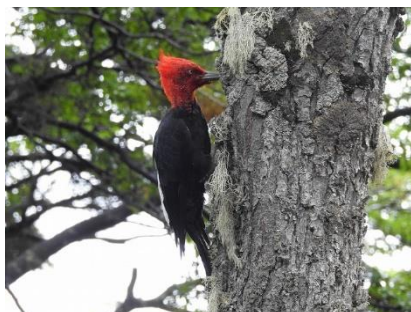
バッファロー



キリンの親子



オオハシ



ウッドペッカー



オットセイ



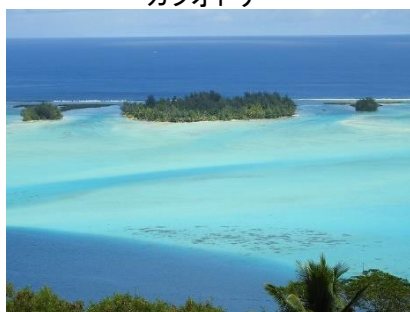
モアイ像



カツオドリ



ネツタイチョウ



ボラボラ島の海



緑色の鳩

ま なつ むる 真夏の夜の ★ ライトトラップ ★ ふ た た び again★

みなさん、覚えておられますか？

夜、ムシ達が光に集まる習性を利用してライトを準備し
ムシが やって来るのを待つのが「ライトトラップ」です。

平成の間は吉本竹本ターがひとりでせみしくやっていた
ですが、令和になると……

ライトトラップパーティー

になっ♡



ライトトラップの参加者が
増えてきました。山大的学生
さんも来てくれました。

(5月2日)

ブラックライトが妖しく夜のガを
おびき寄せます。(5月31日)



ムササビの声を聞きながら…



みんながいるから こわくない★



日が暮れるとまだ肌寒いけど、自家焙煎珈琲（上田洋史氏謹製）の差し入れでやる気十分。白布にとまるのなんて待てない。（5月31日）

白布の上はパーティー状態。作業が追い付かない！（7月5日）



翌日は捕獲した昆虫の展翅作業。頑張りました。（6月1日）



展翅した一部。1ヶ月後標本箱へ。（7月6日）

（岡田美子）



ノムラホイホイ使ってみたら

我々の昆虫採集は昼間の見つけ採りのため夜間に活動する昆虫、特に樹液に集まる大型甲虫類の採集がほとんどできていなかった。そこで昨年あった国立科学博物館の昆虫展で見たベイトトラップ、通称「ノムラホイホイ」を試してみることにした。

まず20のペットボトルの上3分の1を切り落とし、注ぎ口を切り取った後に逆さにして本体に差し込み、排水のため底に数か所の穴を開けると完成。迷彩として茶色と緑色のスプレーで色づけした。



「ノムラホイホイ」はペットボトルで簡単に作れる

ベイトは、完熟したバナナと桃を潰し、砂糖、焼酎、イーストを入れてよく混ぜた後、ラップをして天日に当てて発酵させた。



ベイト（餌）のレシピは自由、色々を試してみる。



樹木に設置したノムラホイホイ

7月5日、ベイトを入れたノムラホイホイを採集フィールドである糸川砂防園周辺の森に4か所に設置した。

翌日、回収するも全く虫は入っていなかった。そこで今度は博物館の裏山に2か所に設置することにした。5日後の7月11日に回収した結果、カブトムシ1匹、カナブン9匹、キノコムシ1匹、スズメバチ2匹を採集することができた。



ノムラホイホイで採集した昆虫類



ノムラホイホイは誰でも簡単に作ることができ、樹液に集まる大型甲虫の採集に有効なツールであることが分かったが、設置場所や期間などが検討課題とされた。(村上敬司)

ゼフィルス観察会 in 山口市徳地

いつもは山口博物館に近い“鴻の峰”付近で昆虫観察をしている田中先生と動物サポーター一同は、5月30日、場所を変え、山口市徳地にある「国立山口青少年自然の家」にゼフィルスの観察に出かけた。

ゼフィルスとは、樹上性のシジミチョウの一群であり、日本には25種が生息するが、美しい種類が多く、この付近では以下の7種が観察できる。

ウラゴマダラシジミ、ウラナミアカシジミ、アカシジミ、ミズイロオナガシジミ、ウラミスジシジミ（ダイセンシジミ）、クロミドリシジミ、ヒロオビミドリシジミ



これまで山口市徳地で採集したゼフィルスの仲間

1 か所にこれだけの種がいる場所が身近にあるのは幸せだ。当日は晴れ渡り、気持ちのいい風も吹き最高の観察日和であった。10時から約3時間、クヌギやナラガシワなどの木々を捕虫網でたたいて回ったが、なぜか目的の蝶に出会えない。2日前の下見では強風の中アカシジミ、ヒロオビミドリシジミは観察できたので期待したのに。

最後に無傷のミズイロオナガシジミがようやく見つかっただけで寂しい結果に終わってしまった。一緒に行った仲間は、それでも普段あまり見かけない蝶や蛾、甲虫を観察でき満足の日であった。

毎年気温が高くなり、年1化の蝶の発生時期が早まっているようにも思う。観察のタイミングが難しくなっているが、来年こそはみんなにヒロオビミドリシジミの卍巴飛行を見てもらいたいと思っている。

(吉本進)



ゼフィルスを探す

お母さんは強かった



子を守るエサキモンキツノカメムシ

背中にハートのマークのあるカメムシを見たことがありますか？

7月6日の昆虫採集中、イイギリと言う木の葉裏に彼女はじっとしていました。肩をポンポンたたいても動きません。そっとつまんでえいやっと引っ張っても、葉っぱにしがみついたままびくともしません。すごい力です。顔を近づけてよく見ると、体の下には緑色のつやつやした卵がびっしり。彼女は必死にわが子を守っていたのです。

彼女の名はエサキモンキツノカメムシ。孵化した子供が1度脱皮して独り立ちするまで、何も食べずにひたすらわが子を守るそうです。

お母さんカメムシさん、私はあなたのすごい力を忘れることはできないでしょう。子育ての邪魔をして本当に申し訳ありませんでした。子育て頑張ってくださいと頭を下げ、私は山を下りました。

そして1週間後、同じ場所を訪ねてみると、同一虫かどうかわかりませんが1匹のエサキモンキツノカメムシがいました。卵も幼虫も見つかりませんでしたが、無事に子供たちが独り立ちしたと私は信じたいです。

鴻ノ峰の昆虫調査と観察会

山口県立山口博物館サポーター動物班では、博物館近くの鴻ノ峰周辺で月に2回の観察・採集を5年続けてきました。採集した昆虫は約1000種、個体数は約5000になりました。

午前中採集をして、午後からは博物館で採集した昆虫の名前を調べたり、標本にするための作業を行ったりしています。

6月9日に行われた初夏の昆虫観察会では、参加者と一緒に山道を歩きながら、観察や採集のお手伝いをしました。小さな子供たちが、虫かごや虫捕り網を持ってワクワクしながら歩く様子を見るのは楽しいものです。山田さんがフクラスズメの幼虫を見つけ、近くにいた小学生に声をかけました。「見ていてね」と言いながら、小枝で幼虫に触れると、幼虫は激しく首を振り始めました。小学生の女の子は興味津々、山田さんの説明に聞き入っていました。(私も一緒に聞き入っていました。)

蝶やトンボなど目立つ昆虫に目が行きがちですが、興味深い生き物は身近にたくさんいることを伝えられてよかったなあと感じました。

(村中明子)



2019年6月に鴻ノ峰周辺で採集した昆虫類

仮剥製

これまでに何回かネズミやモグラなどの小動物は作ったことがありますが、6月はアライグマに初挑戦。いわゆる「毛皮」だけを破らないように剥ぎ取り、中に綿を詰めて形を整えます。

腹から切開するのですが皮の厚さにびっくり。ネズミ<モグラ<アライグマでとても厚くて丈夫そうです。それに脂肪もかなり付いていて思わず自分の下腹も撫でてしまいました。

出来上がりはまるで「ラスカル」。しっぽのシマシマも目のまわりの黒いところもかわいくて思わずメロディーが口をついて出て来ます♪

7月はヌートリアです。皮は薄くてその内側には粘り気の多い真綿のような薄皮が有り脂肪は全く無くて、アライグマとは全く別物でした。

驚いた事に、しっぽは二重構造になっていて内側のはぶ厚くととても丈夫ですが、外側は、まるでへビの抜殻みたいに薄く、乾くと紙（外来種だけに和紙の質感ではない）のように破れやすくて形成ではかなりてこずりました。

草食獣のヌートリアといえばオレンジ色の前歯が特徴的ですが、その前歯（切歯と犬歯）と臼歯の間には長い歯隙（しげき）という部分があり、口をつむっても、4本の歯は常に外に出ています。これは口の中に多量の植物を食べてもぐもぐしやすい構造なのだそうです。水陸両用なので後肢には水かきが発達していたり、耳の穴には沢山の毛が生えていたり、とても興味深いホネっ子の一日でした。（山田恵美子）



かわいく作ったアライグマとヌートリアの幼獣の仮剥製

コラム 特定外来生物 アライグマとヌートリア



山口市で有害捕獲により捕まったアライグマとヌートリア

特定外来生物とは、海外起源の外来種であって、生態系、ヒトの生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又はおよぼすおそれがあるものの中から政令で指定された種です。アライグマとヌートリアはともに特定外来生物に指定され、防除実施計画に基づき捕獲を行っています。

アライグマの原産地は北米で、食肉目アライグマ科に属し、大きな個体は10 kg近くあります。山口県内では2010年に繁殖が確認され、以後生息域は拡がり、各市町での生息が確認されるまでになっています。雑食性で身体能力が高く、泳ぎも得意で、水生生物から樹上性の生物まで広範な動植物を食べます。人家の屋根裏に住みついたり、戸を開け家屋内にも侵入するなど、様々な問題が起こります。

ヌートリアの原産地は南米で、齧歯目（げっしもく）ヌートリア科に属し、アライグマ同様大きな個体は10 kg近くあります。水辺や水中での活動が中心で、後足には水かきがあります。山口県内には2012年に生息が確認され、急速に生息数が増え、現在山口県内の全市町に生息しています。草食性で、ヨシやヒシなどの水生植物や陸生の植物など食べ、イネや野菜類なども食べるため、農作物への被害が増えています。博物館では有害捕獲された個体の骨格標本や仮剥製標本の作製を進めています。

カメさんとトメさん

7年前に畑の近くでクサガメを見つけました。名前はリボンちゃんです。庭のプール（台所の洗い桶）付の囲いの中で半年くらい暮らしていましたが、いつの間にか居なくなりました。次の年の春、その庭に500円玉くらいの子ガメが2匹♡なんと！ツツジの根元に卵を産んでいたようです。今では私の手のひらより大きくなりました。そのクサガメが大変な事に！ずっと在来種だと思っていたのに、江戸後期大陸から入った外来種だということです。え～(*_*)ですよ（-_-;）クサガメの寿命は60年以上!! 110歳まで一緒に穏やかに生きられるように頑張らねば（^o^）



500円玉くらいの子ガメは成長して大きくなった

表紙あとがき

顔のバランスが悪くなったお話をしましたが、ずいぶん良くなりました♪110歳まで健康に生きるために、ゆっくり穏やかに過ごすように心がけています。ゆっくり、ゆっくり、カメの様に…（原まゆみ）

山口博物館サポーター動物班活動報告 “サポちゃん通信” No. 5

発行 2019年8月1日

編集 山口県立山口博物館サポーター動物班

発行 山口県立山口博物館 〒753-0073 山口市春日町8-2

Tel 083-922-0294 Fax 083-922-0353